

新宮山彦ぐるーぷ第1846回

笠捨山の捲道(旧通信道)補修作業等

◇実施日：平成27年11月20日(金)～23日(月)

◇参加者：青木宏充(20～23日)、山口泰宏(20～21日)

梶野照雄、浅村朋伸(22日、日帰り)。計4名。

11月20日(金) 晴

午前10時に補給路登山口で山口さんと合流し、準備後、行仙宿へ向かう。小屋到着後すぐに昼食。12時にジョレン、大ハンマー、小ツルハシ等を持って旧通信道へ。

2ヶ所、軽く手直しした後、15m程の長さで崩落している現場に到着。



軽く手直し



崩れの酷い箇所



落ちた部材を引き上げ

山側斜面は斜度がきつく、道幅を広げることが困難なため、谷側に落ちてしまっている木杭と横棧丸太のセットをロープを使って引き上げた。一ヶ所は崩れて、穴あき状態になっているので、丸太を5本並べ橋状にし、山側を少し削って幅員を確保。さらにエキスパンドメタル2枚を上敷いた。

ここだけで1時間強かかった。その後、別の3カ所を手直し、

14時に送電鉄塔前の崩落個所に到着。



丸太を並べて



エキスパンドメタルも敷いた



何から手を付けるか、検討した後、崩れ落ちている木杭・丸太の柵を引き上げにかかる。8セットを登山道まで引き上げ、最初に2本の杭を打ち込んだ時点で15時になり、作業を中断して行仙宿小屋に戻る。夕食後、22時30分就寝。

11月21日(土) 晴

午前6時30分に起床。朝食後、8時に小屋を出発。8時40分、送電鉄塔前に到着。昨日の作業の残りの部分の補修を始める。

9時30分に送電鉄塔前の作業を完了して小屋に戻る。戻る途中で若干の手直しが数カ所、落ち葉と流れてきた土砂で埋もれていたプラスチックの階段を掘り出して元通りにする。

奥駆道分岐に10時30分到着。休憩後、11時行仙宿小屋に戻る。昼食後、12時に行仙宿を後に下山する。

池原で本日帰宅の山口さんと別れ「きなりの湯」へ。入浴後、食糧を調達して、再度行仙宿小屋へ向かう。

15時30分、行仙宿小屋に戻る。

追記…送電鉄塔までの間に、一ヶ所トラロープが張ってある箇所も補修したかったが、2人ではどうにもならず、土止めにして杭や丸太も全て流されて付近には見当たらない。歩きやすいように、簡単な補修はしたが、本格的な補修には、ある程度の人数が必要と思われる。

(記 青木)



送電鉄塔横の補修



埋もれた階段も掘り出した



11月22日(日) 曇り時々晴

国道169号が崩土通行止めになり、ヤキモキしていたが迂回路が設定され、どうにか通行できるようになった。

午前8時30分にスポーツ公園の駐車場で浅村さんと合流、行仙宿小屋へ向かう。11月下旬とは思えないような気温の高さで、持ってきたフリースやダウンジャケットは必要なかった。浅村さんはTシャツで登っている。

10時20分、小屋到着。青木さんが窓から顔を出して出迎えてくれた。

彫像の材料にするため、小屋の少し南側にある桧材の中から、直径30cm位の一本を選び、適当なサイズに切り分けた。



小屋到着



ひび割れ防止剤を塗る



使い方のレクチャー

切り分けた材料を小屋まで運び、ひび割れを防ぐ薬剤を塗っていく。青木さんは材料の使い方について、園城寺で仏師修業等を終え独り立ちされている浅村さんからレクチャーを受けている。2
チェンソーを出したので、今夏の台風で大きく西に傾いた杉の根が登山道に飛びだした部分を切除した。この杉はすでに葉が黄変しているので、いずれ枯れてしまうだろう。

作業が一段落し、11時50分から昼食。昼食後、用意してきた電源コンセントを取り付ける。



配線の変更



西側に一個



東側にも

行仙宿小屋は、梁までの高さが高く、脚立の登り降り時間で時間を食い、用意した3個の内、2個しか取付けできなかった。
午後2時30分に作業終了。工具類を集めて下山準備をする。
管理棟の分も用意してきたが、次回に持ち越しとなった。
明日、帰宅の青木さんに後を託し、午後3時過に下山した。



22日の参加者



松材を背に



後ろ向き慎重に降りる

帰路、169号の迂回路通過には55分を要した。予想はしていたが、早期の復旧を願うばかりである。

行動タイム

11月22日(日)
スポーツ公園 08:40→09:20 補給路登山口→10:20 行仙宿→作業
→11:50 昼食 12:40→コンセント取付け等 14:30→行仙宿
15:05下町→登下口 15:40°

(記 梶野)